

小さな天文学

私だけにしてくれた世界

子供の頃、よく望遠鏡を覗いていた。片目に丸く切り取られた輝きを見ることが好きだった。それ以上のものはない世界だ。私とそこに映る美しい夜空だけを照らし出す。丸く切り取る筒は、私の宇宙への入口のようなものだったのかもしれない。



虚像の雨水

どこまでも高いシャワー。暗闇からの水が私に打ち付ける。それはまさに自然に包まれたような感覚を覚え、私を一人にしてくれる。

情報過多は感受性を退化させる

アメリカの心理学者ハーバート・サイモンは述べた。「情報の豊かさは注意の貧困をもたらす」

昨今、情報にまみれた社会を生きると、ふと自分を見失う時がある。自分の周りが情報にまみれてしまっていることにも気づかず、自分のことを見てあげることも忘れてしまっている。その積み重ねは日に日に自分を蝕んでいる。家に帰ってもスマホ、テレビ、パソコンなどの外からの情報を取り込むもの。冷房などの空調は外の環境を受け入れないための装置になってしまっている。こうした雑多な情報は大人になるにつれて増えていき、より自身に手が回らなくなる。住宅こそ、それらから解放されたゆったりとした時間の流れを過ごし、自分を見つめることが昨今求められているのではないか。

私の宇宙への入口

電気を使わない家は、遠くからの情報から遮断され、微量な電子音からも開放される。昼は薄暗い空間で過ごし、夜は微量な月明りと静けさの中を過ごす。こうした情報の欠如は注意力の密度を高める。その時、私は、そこで刺激する何かと対話する。家が持つ物理的枠組みを飛び出し、あらゆる輪郭を消していく感覚を覚える。それが宇宙である。その感覚は、大きな社会の流れの中で、私を私足らしめてくれる大事な瞬間であり、その体験が電気を使わない家を楽しむ。



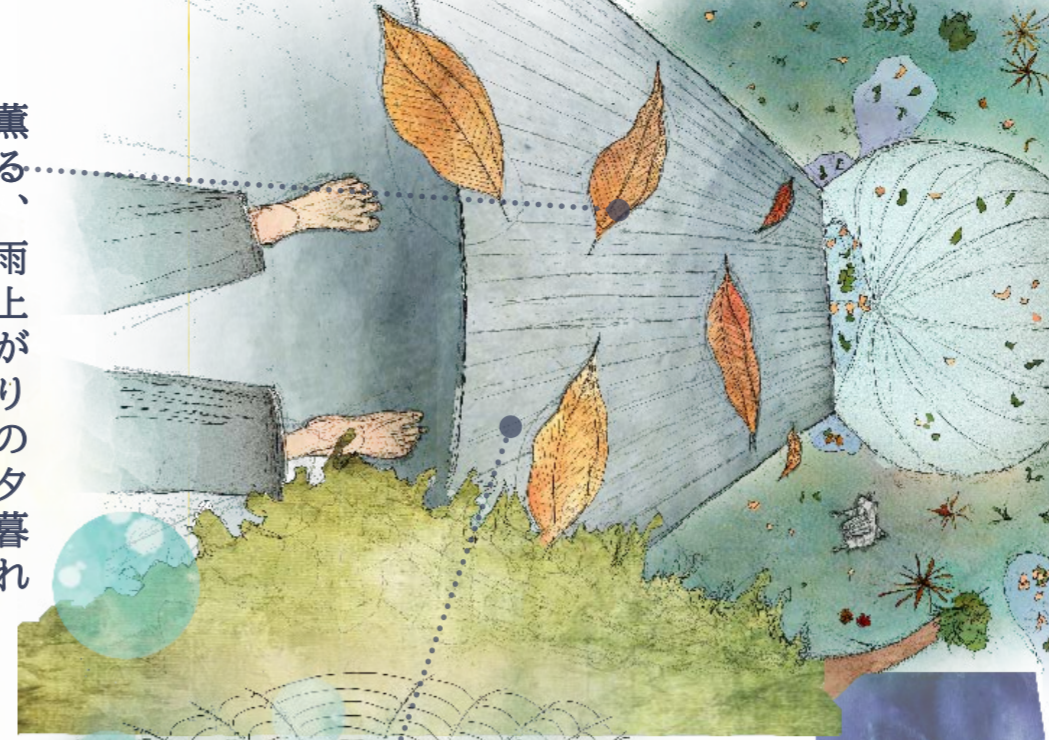
無数の情報や他人の行動に作用される現代社会。 社会の抑圧から解放され自分自身の世界へ没入する。

経験を元にした無意識空間の創出

こうした宇宙の入口は意外と簡単に開くことがある。しかし、人はその時間をとることを意識的にできない。そうした無意識の世界こそが暮らしを豊かにしていることに気づくこともない。そんな無意識の世界に入りやすくする為に、住宅で過ごすモジュールを少し崩し、自己の体験を元に五感を刺激するあらゆる要素に絞りをかける。電気という大きな情報の遮断に、物理的な遮断を加えることでより洗練された無意識の中に没入する。それを可能とするのが、私たちが提案する「電気を使わない家」の在り方である。

うつろいに手を借りて

テント素材の溜まり空間に雨水が溜まり落ち葉が積もる。季節の風の揺らぎを感じながら、自分の流れを投影する。



水滴に映る他者の影

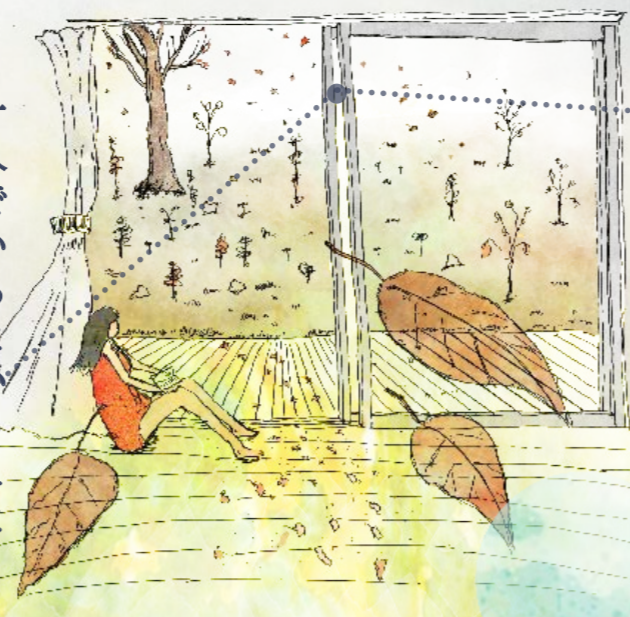
高いシャワーから吹きあがった湯気は上部の温室空間へと流れ込み、水滴になる。他者の存在が自然に姿を変えて、姿を現す。

雨水と水滴の共鳴

シャワーの音と、水の音が共鳴する。テントのような膜素材は室内に音を響かせる。シャワーなのか、心臓の音なのか。その絶妙な均衡が私に響くことを知る。

薫る、雨上がりの夕暮れ

私の特等席。外からの空気が草木の匂いを連れてくる。私の鼻を、すすめるその匂いは日のめぐりを感じさせる。



ブラックホール

壁にぼっかりと空いた穴。スケールの狂ったその穴は空間に歪みを持たせ、異次元への扉を予感させる。

まっくらに落ちていく

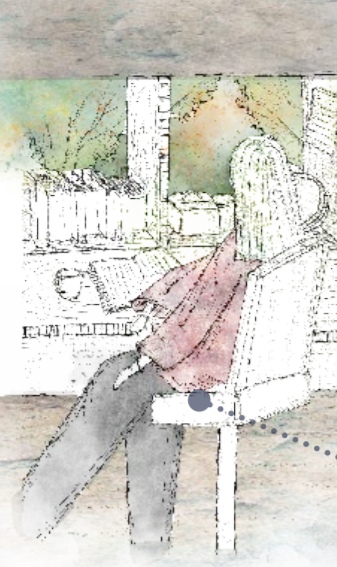
球体の終わりのなき黒。目の前の黒い広がりには私はプラネタリウムのような創造を起こし、無意識の世界に没入させる。

一人でいるということ

長く、湾曲した階段を経て、闇に包まれると、こまでも高いトイレ。住宅における最小単位の個室は私が一人でいることを強調し、私を見つめさせる。

緑に照らされる私

ふと、出窓の枠を見る。そこにあるのは、自然と私だけ。風に揺れる様子が自身を見つめるきっかけになる。



日が照らす、私と本の世界

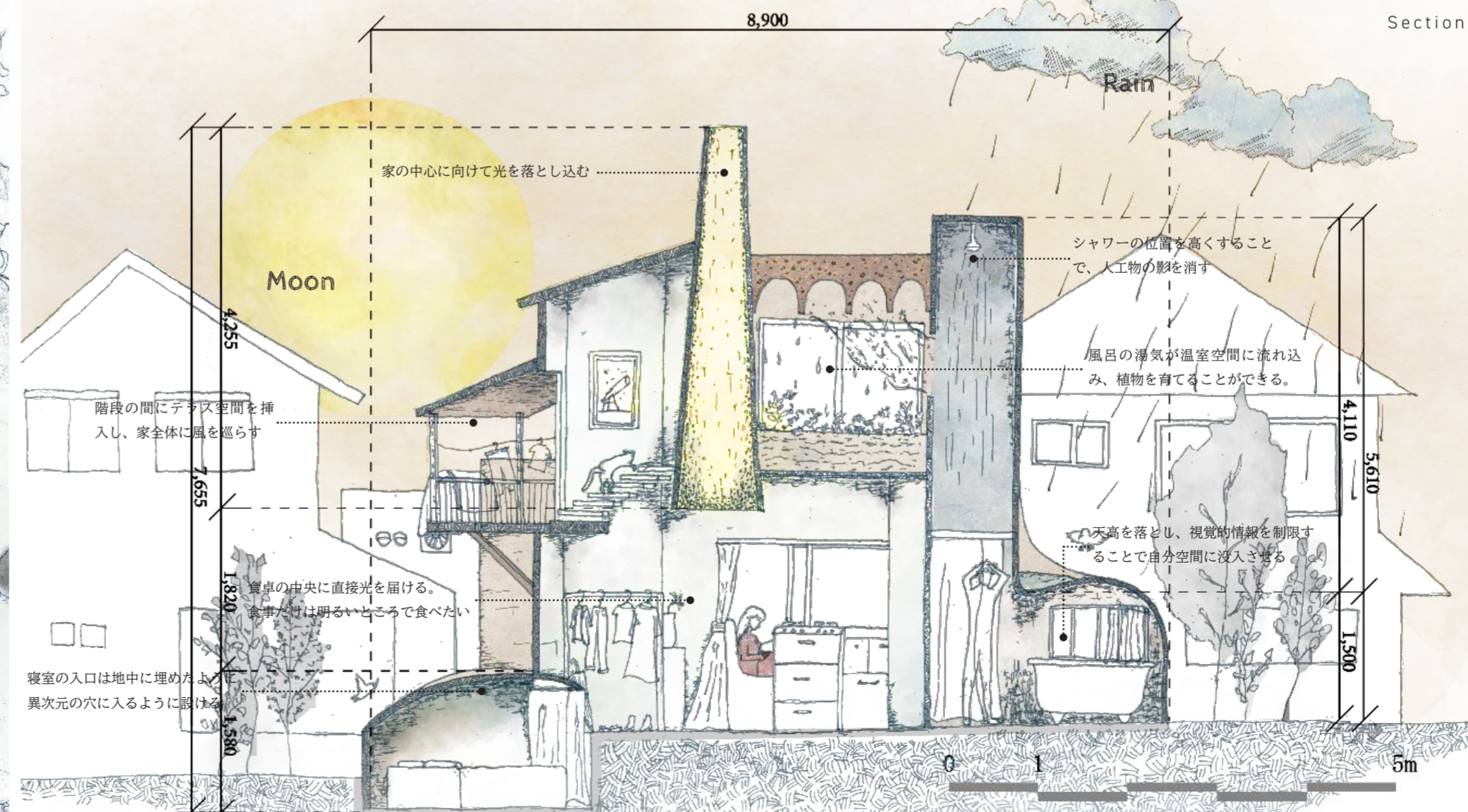
日光の元でホワイトアウトした世界で私と本だけ。この書齋は私と私の好みだけを写し出してくれる。いつしか本だけが私を取り巻いてくれる。

香りが私に訪ねてくる

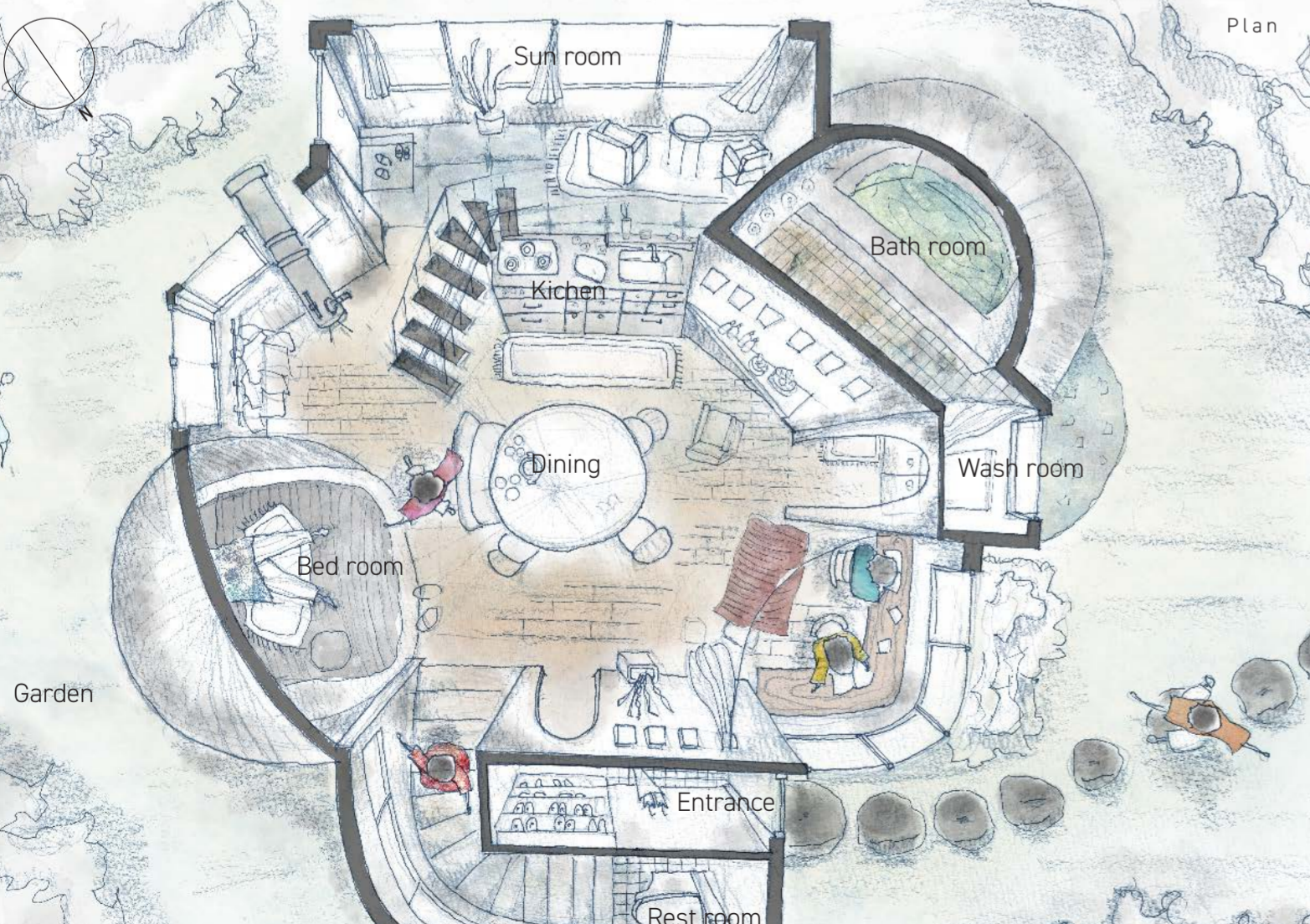
ダイニングで妻が作る料理の匂いが立ち込める。その香りは一瞬の曹風まで私を誘い、私の世界に記憶を介入させる。



Plan



対象とする敷地は、都内に近い、住宅街の一角である。この地域は、大通りから裏道に入ると、都市の喧騒と裏腹に閑静な住宅街で溢れている。この住人は都心で働きつつ、家ではひっそりと私時間を楽しむ若い夫婦である。都心でも感じることでできる些細な変化に気づき、それが織りなす景色、音を楽しみ暮らしている。



食事だけは明るい場所で食べることを基準に周辺に、風呂・寝室などの生活に必要な要素を盛り込んでいく。それぞれがそれぞれの活動により、モジュールを崩すことで、無意識の世界に入り込みやすい平面構成とした。